

第 13 回東日本女性登山交流集会に参加して

所沢ハイキングクラブ 吉本正子記

7月上旬、案内が配信され、私はすぐに参加を決断した。開催地が南会津であること、講演会の題が「福島再生を語る」であることに心惹かれたのである。南会津の山に行けることも魅力のひとつであった。福島は私の大切な故郷。あの忌まわしい原発事故によって福島が“フクシマ”として世界中に知られるようになって、私の福島への想いは、いっそう強くなった。



しかし、事故から2年半を経過して、日本中の人々はまるで何事もなかったかのように暮らしている。そして原発を外国へ輸出をすとか、再稼動に向けての準備が着々と進められているとかおよそ信じがたいことばかり。本当にこの国は狂っているのではないかとさえ思い絶望的になっていたころ、この女性委員会の

イベントへのお誘い。福島のために何ができるか、何をすべきかそのヒントを掴みたいと思った。

10月12日夕刻。森田さんと私は、埼玉県連の方々と緑の森キャンプ場で落ち合う。あいにく雨が本降りとなったが、新座山の会、山遊会ビスターリ、所ハイのメンバーで自己紹介をし合ったり、持ち寄りのお惣菜や温かい鍋を囲んでおしゃべりを楽しんだ。私にとっては、初めてお会いする方ばかりであったが、親しみを感じるのは、やはり同じ労山の仲間だからだろう。とても充実した時間だった。

10月13日。この日は、交流登山の日である。夜の間、降り続いていた雨も上がり、すっきりした青空がのぞく。私達は七ヶ岳に向かう。黒森沢登山口まではチャーターした小型バスを利用。到着すると、すでに福島県連、南稜会の方々が待機されていた。

懐かしい会津弁でダジャレを飛ばす会長さんの案内で、緩やかな登山道をにぎやかに進む。1時間半ほどで、一番の難所である護摩の滝に到着した。5メートルほどの高さで



あろうか。あちこちにロープがあるので登りやすくなっているが、滑ったら擦り傷、びしょぬれは覚悟しなければならない。岩が大好きな森田さんは、「楽しそう！」と喜んでいて、私は途中お尻を押してもらって

何とか登り切ることができた。なかなかスリルがあり、楽しいルートだった。滝を上らず巻き道を利用することもできる。その後は浅瀬の岩をたどりながら沢の中を進むが、黒い苔が生えている岩が要注意で、うっかり乗るとつるつると滑る。ほどなくすると沢は細くなり、やがて沢から離れて尾根道につながる登山道に出た。



尾根道に出ると急に視界が開けて、歓声が上がる。遠くに山々を望む素晴らしい景色。残念ながら、山の名前は特定できなかった。山頂は、すぐ先があり、えっもう、頂上なの？という位。天気がやや不安定で、霧雨の中、雨具をつけながらの昼食休憩となった。

リーダーの村上さんがおっしゃっていた通り、そこからが、七ヶ岳の始まり。前方にいくつもの嶺が立ちはだかる。あの登りに行くのかぁ・・・とちょっぴり憂鬱になるが、木々が美しく色づい

ているのに励まされて、あまりきつさも感じることなく、下岳登山口に無事下りることができた。休憩も含め、のんびり歩きで、6時間の行程であった。楽しく歩かせて下さった福島県連の皆さんに感謝！！

ホテルに戻り、入浴やら、買い物やら思い思いの時間を過ごし、いよいよお楽しみの夕食&交流会。バイキングで立食パーティー形式だったが、運ばれてきた料理があったという間に消えるので、登山女子は食欲も凄すぎる！とホテルスタッフを驚かせたそう。

青森から、神奈川まで参加者はスタッフも含めて150名近く。



お国自慢の歌やら踊りが披露され、にぎやかで、和やかなムードの交流会となった。埼玉県連は、秩父音頭を披露。僅かな練習時間だったが、沢山の方が飛び入り参加して下さって、評判は上々だったように思う。久保さんの教え方が良かったのかも。

14日は、朝8時15分からの山筋ゴーゴー体操で幕を開けた。指導者の石田先生は背筋がピンと伸び、無駄な肉がなくて、本当に魅力的。“100歳”まで、山登りが



できる体を作りましょう。というコンセプトで山筋ゴゴゴを考案されたと聞く。確かにきちんと取り組むとなかなかきつい。でも、これを習慣づけたら、本当に100歳まで山登りができそうな気がする。まだ、始められていない方、是非、早めの取り組みを！1冊200円の冊子購入で、山登りのための筋力の鍛え方が獲得できます。

さて次は、メインの講演会。講師は福島大学の副学長も務められた教授の清水先生。長年、原発問題に取り組み、その危険性について警鐘を鳴

らされてきた方である。実際に福島に生活されているので、福島県民の立場や視点から原発事故の現状や、今後の在り方などをお話下さった。反原発を唱えている他の学者や活動家とは一致するところもあるが、違っている点もあったように思う。それは、“福島県民にとってどうなのか”をいつも基準にされているからか。

私も、いくつかの反原発集会やデモに参加してきたが、“フクシマは汚染されていて危険だから、早急に子供は全員北海道に避難させるべき”と声だかに叫ぶある著名人には強い違和感を覚えていた。福島には沢山の人が生活しているのに、何て配慮のない主張なのかと……。また、福島の農産物をあからさまに避けたがる大人にも反発を感じる。(子どもは仕方ないと思うが。)貴方には少しの責任もないの？と問いたい。先生がおっしゃるように、原発から遠く離れた首都圏で、豊かな生活や便利さを(何にも自覚しないまま)享受してきた私達に何の責任もないとは決して言えないと思うから。



一方で、先生は、チェルノブイリを何度も訪問され、福島とチェルノブイリとの違い、放射能とどう向き合うのかなども教えて下さった。大切なことはむやみに放射能を怖がらず、正しく怖がることなのではないかと思う。

福島のために、私は何ができるのだろうか。何をすべきなのだろうか。いくつか考えられることを挙げてみたい。それは、原子爆弾、原発事故の両方を経験した唯一の国の一員として、原発を含む、核廃絶への運動や集会などに参加し、行動をし続



けること。福島復興(他の被災地も含む)のためのイベントなどがあつたら、積極的に参加し

ていくこと。自分の住む地域に福島から避難されて来た方々と交流を持つこと。時々、福島を訪れて観光を楽しんだり、ものを買ったりすること(山にも沢山登りたい!) 新聞や本を読み、勉強する機会を多く持つこと。また、原発に関する学習会などに参加していくこと、などなど。難しく考えず、まず自分のできること、出来そうなことから始めようと思う。そして、いつも、福島を忘れないようにしたい。

福島の応援団でいたい。最後のプログラムに福島の山々を実際に歩かれ、放射線量を測って下さった貴重な記録の発表があった。事故当日の放射能の流れ方によって山の線量は強いところ弱いところがあり、スピーディの記録とほぼ一致したとのことだった。

汚染はまぬがれないものの、登山を控えなくてはならないような深刻な事態にならなかったのは幸いだったと思う。測って下さった皆様、ありがとうございました。

我が家の玄関先には、福島県連理事長の村松孝一さん作の起き上がり小法師が飾られ、出迎えたり、見送ったりしてくれています。ひとつひとつ村松さんが筆をいれられたとか。何度転んでも起き上がる、そんな強さに、福島の希望を託したいと思います。

今回の交流集会、実り多く、とても温かなものでした。参加して本当に良かった!!と思います。準備、運営に携わったスタッフの皆様、お疲れ様でした。また、埼玉県連のみなさま、御世話になりました。心からお礼申し上げます。

